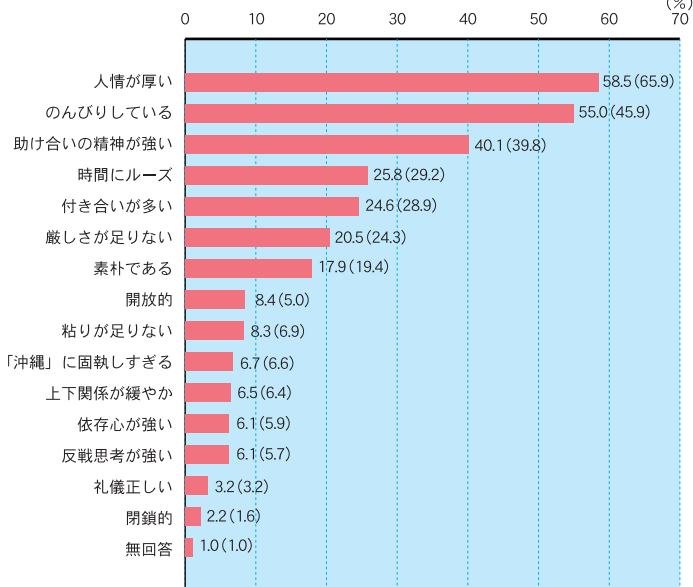


# 数字の小道

## ⑦ 沖縄の県民性や郷土に対する県民意識

総務部調査企画課

図1：沖縄県民の特性についての認識



備考：1. 琉球新報社が2006年に実施した「県民意識調査」による（図2～4も同じ）。  
2. 回答は各項目より3つ選択方式。  
3. ( ) は2001年の同期調査結果。

「人情が厚い」「助け合いの精神が強い」とみる沖縄県民  
沖縄県民は「ユイマールの精神<sup>（注）</sup>」という言葉で表されるように、全国の中でも助け合いの精神が強いと言われています。琉球新報の「県民意識調査（2006）」をみても、沖縄県民の特性として、多くの県民が「人情が厚い」（58・5％）、「助け合いの精神が強い」（40・1％）といった項目を挙げています（図1）。なお、これらのほか、上位には「のんびりしている」（55・0％）という項目も入っています。

ところで、5年前の同調査結果と比較してみると、「助け合いの精神が強い」を挙げる人の割合はほとんど変わらないものの、「人情が厚い」の割合は7・4％低下しています。また、地域社会の中での人とのつながりや地域との関わり方にも変化がみられます。「隣近所との付き合いの程度」について、「とても盛んだ」と答えた人の割合は、12・6％と5年前と比べ3・8％低下し、「地域の行事や祭りへの参加の程度」

図3：地域の行事や祭りへの参加の程度

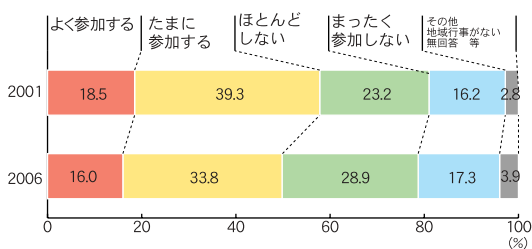
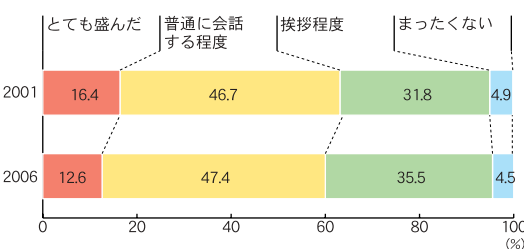


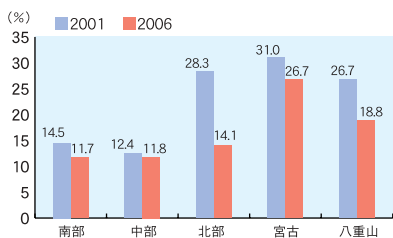
図2：隣近所との付き合いの程度



についても、「よく参加する」「たまに参加する」の合計が49・8％と5年前より8・0％低下しています（図2・図3）。さらに、「隣近所との付き合いの程度」を地域別にみても

図4：隣近所との付き合いの程度（地域別）

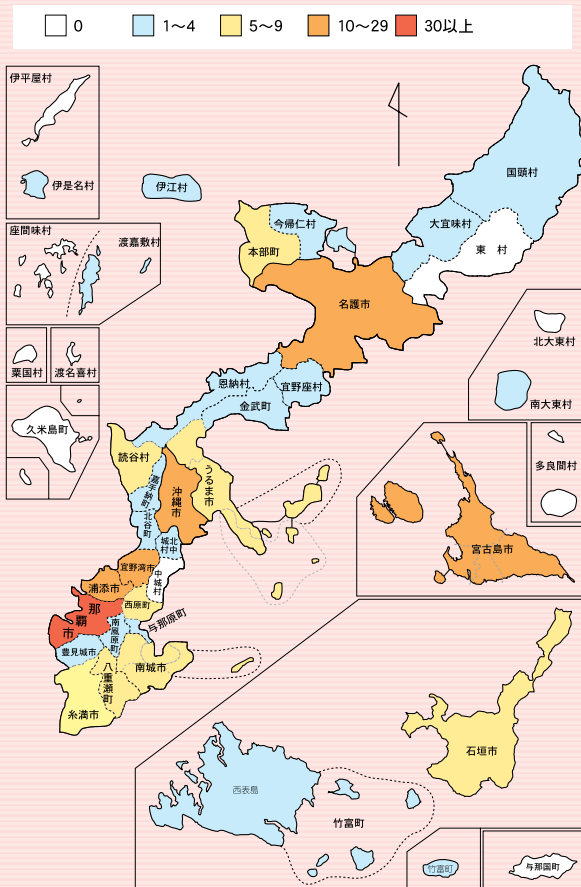
「とても盛んだ」と答えた人の割合



と、「とても盛んだ」と答えた人の割合は、北部地域や宮古・八重山地域の方が中南部地域に比べ高い水準にあります。5年前と比べるとどの地域も低下していますが、北部地域や宮古・八重山地域の方が中南部地域に比べ、低下幅はより大きくなっています（図4）。  
このように、ユイマール精神が強いと言われる沖縄でも、地域社会の中の人とのつながりが以前ほど強いものでなくなりつつあり、地域との関わりが弱まってきたのかもしれない。北部地域や宮古・八重山地域は中南部地域に比べて相対的に地域のきずなが強いとみられますが、そういった地域でも近年変化が起きている可能性があります。

（注）沖縄の方言で、労働交換のならわし。共同体のもっとも原始的な相互助け合い。血縁関係から集落単位のものまで、形態はさまざま。古くは田植え、サトウキビの刈り取り、家の普請までユイマールに頼った。（琉球新報社「沖縄コンパクト辞典」より）

図5：市町村別NPO法人数



備考：1. 2007年2月1日現在の沖縄県認証分NPO法人数である（沖縄県県民生活課）。  
2. 主たる事務所の所在地によりカウントしている。

## ・地域活動の新たな担い手

沖縄では、前述のような変化が起きつつあるとしても、未だ地縁型のコミュニティが存続し、重要な役割を果たしている地域も少なくないと思われるが、全国状況を見ると、東京や大阪、名古屋をはじめとする大都市圏などでは、ライフスタイルの都市化等に伴い地域社会の中で人間関係が希薄化し、地縁型コミュニティが衰退しています。この結果、地域が直面する問題や課題に自立的に対応することが困難な状態の地域もあると言われています。さらに、全国の地方都市や農山漁村の

中には、高齢化や人口減少により地縁型コミュニティの活動が停滞しているところもみられます。こうした中で、価値観の多様化や社会貢献活動への関心の高まりなどから、共通の問題意識を持った人達が自発的に集まり、福祉やまちづくりといった特定の目的を掲げて社会貢献活動を行うNPO（Non-profit Organization：非営利組織）などの多様な主体が、地域活動の新たな担い手として注目されています。沖縄においても、NPO活動が活発化しています。沖縄

県の設立認証を受けたNPO法人の数は加速的に増加しており、平成19年2月1日現在で271法人に上っています。その活動分野を見ると、「保健医療又は福祉の増進」「社会教育の推進」「まちづくりの推進」「子どもの健全育成」の割合が高くなっています。

市町村別NPO法人数主たる事務所の所在地（地）を多い順にみると、271法人中、那覇市が109法人、続いて浦添市が21法人、沖縄市が16法人、宮古島市が15法人、宜野湾市が13法人となっています（図5）。

このように、沖縄県においても近所付き合いが相対的に盛んでない都市部を中心に、NPO活動が着実に広がってきているようです。

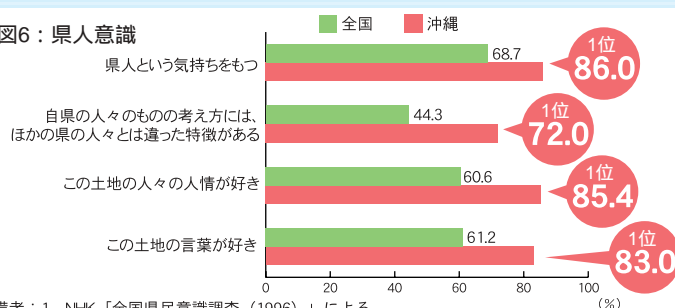
## ・沖縄への強い愛着と誇りを活かそう

NHKの「全国県民意識調査（1996）」によると、沖縄県民は、「沖縄県人という気持ちをもつ」「沖縄県の人びとのものの考え方には特徴がある」と考えている人の割合が全国一高く、また、沖縄のことは「人情が好き」な人の割合も全国トップとなっています（図6）。さらに琉球新報の県民意識調査（2006）

でも、アンケートに回答した沖縄県民の8割以上が沖縄県人であることを誇りに思うと答えています。

このような沖縄県民の郷土に対する強い愛着や誇りは、地域のための行動につながる大きな可能性を秘めています。住みよい地域づくりのために一人一人が地域の問題に関心を持ち、できることを実行していくことが大切ではないでしょうか。

図6：県人意識



備考：1. NHK「全国県民意識調査（1996）」による。  
2. 図中の順位は、全国における沖縄の順位。

今回で全7回の「なかゆく」の小道は、今回は最後です。原稿作成にあたりご協力いただいた多くの方々に感謝申し上げます。ご愛読ありがとうございます。

（調査企画課／伊波 沙耶佳・石川 正之